



DEN

No.22

2018.5.9
発行

作業療法を伝える
NEWS&COMMUNICATION

公益社団法人 大分県作業療法協会 広報誌



心豊かに作業療法

CONTENTS - テーマ:地域生活を支える作業療法(就労編) -

- 1 施設紹介: 大分大学医学部附属病院 精神科デイケアセンター
株式会社しんせいの杜 多機能型事業所サンジョイ
- 3 教えて! 作業療法「統合失調症とは?」
- 5 まんが作業療法物語
～ 地域生活を支える作業療法(就労編)～

- 10 平成29年九州北部豪雨における
大分JRATの活動報告
- 11 作業療法フェスタ2017
- 12 以心伝心
- 13 活動報告



公益社団法人 大分県作業療法協会

大分大学医学部附属病院 精神科デイケアセンター



大分大学医学部附属病院外観

所在地：〒879-5593 大分県由布市挾間町医大ケ丘1-1
TEL 097-586-6483

施設利用定員：26名

対象者：精神障害
(双極性障害、うつ病)

施設職員：医師、看護師、
作業療法士、臨床心理士、
精神保健福祉士



附属病院内「デイケアセンター」



デイケアセンター職員

施設紹介

大分大学医学部附属病院 精神科では2017年5月より精神科デイケアを開始しており、双極性障害やうつ病の方を主な対象としたリワークプログラムを実施しています。リワークとは Return to Work の略であり、うつ病などの精神疾患によって休職や失業をした方が、職場復帰ができるように支援する取り組みのことです。リワークの目的として ①再発防止のためのセルフケア能力を向上させること ②復職準備性を向上させること(復職準備性とは精神疾患が再発せずに復職できる状態にあるかどうかということを示します) ③再休職を予防することなどがあります。

当科では病院内のデイケアセンターで、平日の午前9時から午後4時まで1時間の昼休みを挟んで活動しています。決まった時刻にリワーク施設へ通うことで、会社へ通勤する訓練となります。また、心と身体への気づきを深めるために、瞑想の一種であるマインドフルネスも経験できます。うつ病になる前や休職したときの状況を冷静に振り返り、再発や再休職しないためにどのような工夫ができるかを考えます。復職後にスムーズに仕事ができるように、復職先の仕事に見合った作業を繰り返しながら、徐々にレベルアップしていきます。このようにして、復職が成功しやすい状態に高めていきます。作業療法士はプログラム全体に関わりながら復職のためのサポートを行っています。

デイケア 各コース週間スケジュール

コース		月	火	水	木	金
ビジターコース	午前	個人活動		マインドフルネス		芸術活動(絵画/書道)
	午後	運動		認知行動療法		芸術活動(絵画/書道)
前期 体力回復コース	午前	週間スケジュールの振り返り	個人活動	マインドフルネス	運動	芸術活動(絵画/書道)
	午後	運動	認知トレーニング	認知行動療法	運動	芸術活動(絵画/書道)
中期 社会復帰コース	午前	JOBトレーニング	週間スケジュールの振り返り	マインドフルネス	個人活動/自己分析	JOBトレーニング
	午後	運動	認知トレーニング	認知行動療法	JOBトレーニング	グループワーク
後期 リワークコース	午前	JOBトレーニング	JOBトレーニング	マインドフルネス	JOBトレーニング	JOBトレーニング
	午後	運動	JOBトレーニング	認知行動療法	JOBトレーニング	グループワーク

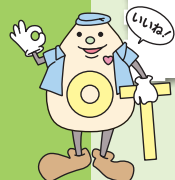
(注)各コースにつきましては、デイケアセンターのスタッフと相談しながら決めさせていただきます。詳細な内容は、各々の参加状況などにより異なる可能性がありますので、予めご了承ください。



デイケアセンター内観



記事担当者/山下 瞳



株式会社 しんせいの杜 多機能型事業所 サンジョイ

所在地：大分県大分市下戸次1270-1

TEL 097-507-9798

就労移行支援(定員6名)

就労継続支援B型(定員14名)

対象者：精神障害、知的障害、身体障害

支援員：管理者1名、サービス管理責任者1名、就労支援員1名、
職業指導員5名、生活支援員1名

法人関連施設：放課後等デイサービス ジョイ(定員：10名)

大分市中戸次4577-1

放課後等デイサービス ここわ(定員：10名)

大分市中戸次5932-2



施設外観



支援職員

施設紹介

多機能型事業所サンジョイでは就労移行支援と就労継続支援B型の二つの事業を行っています。就労移行支援では企業への就職を希望する方に対し、働くために必要な知識・能力を身につける訓練を行い、就労継続支援B型では現時点では企業で働くことが不安だったり困難である方に対し、働く場所を提供しています。

精神障害の利用者が大半を占める当事業所では、農作業が主な訓練活動として行われています。屋外作業では草取りなどの圃場整備、種まきや苗植え、収穫などの野菜栽培をビニールハウスや露地畑で行っています。屋内作業は作業場での大根菜の洗浄や、トウモロコシやピーマンなどの野菜の袋詰めの出荷作業を行っています。

農作業は3K（きつい、汚い、かっこ悪い）と言われることもありますが、汗を流しながら泥だらけになりながらも、作業をしている利用者の表情は明るく活き活きとしており、症状の安定・改善に役立っていると思われます。

障害を患い仕事ができなくなった利用者は、再び「福祉的就労」という場所で働き、新たなステップ(企業への就労)に向けて、悩みや迷いを持ちながらも前進しています。また、目標が一般就労ではなく、福祉的就労の場で安全に働くことに生きがいを感じておられる利用者もいます。このように就労に対する様々なニーズをもつ障害者の方を支援する障害福祉は、まさに作業療法の領域だと確信しています。



苗の植え付け



ナスの収穫



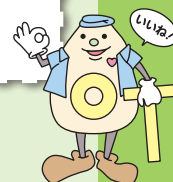
ビニールハウスでの収穫



大根菜洗浄



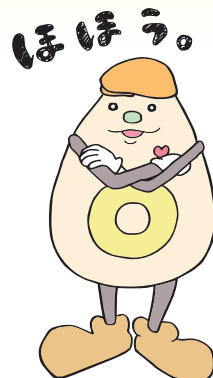
記事担当者／中務 よしあき 欽章



教えて！ 作業療法

統合失調症とは？

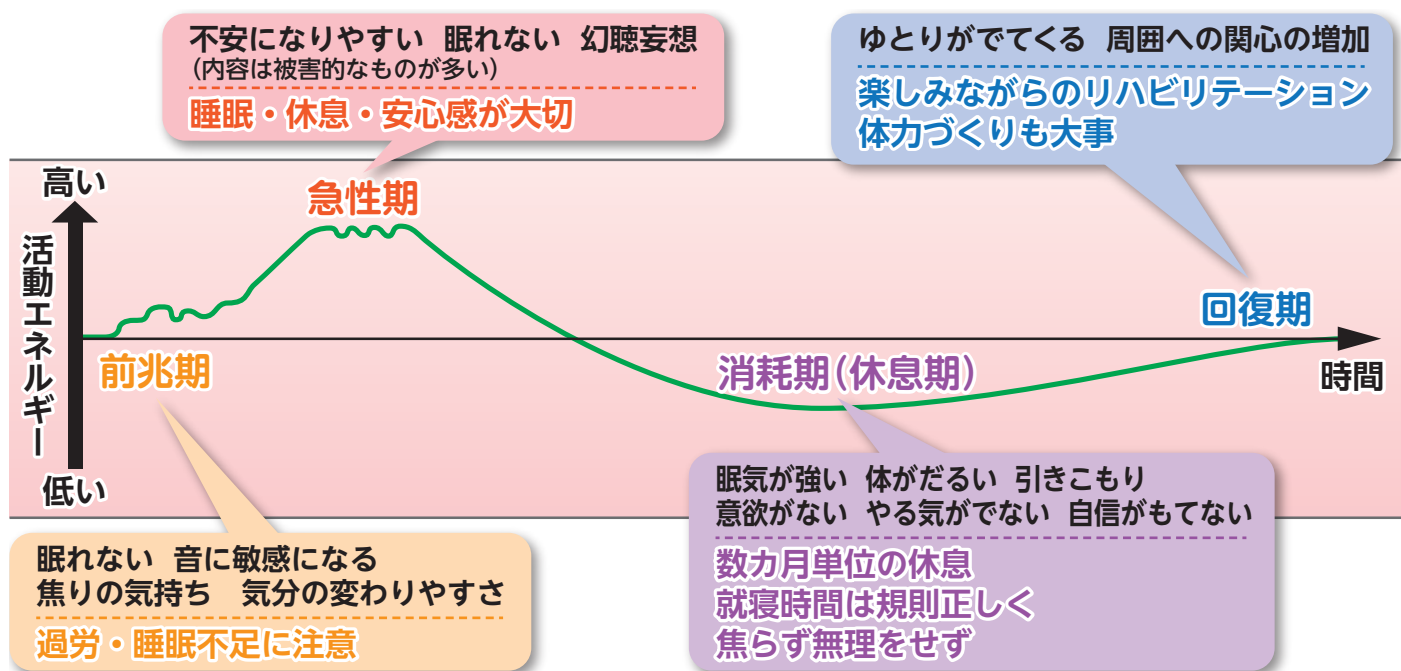
脳の機能バランスが崩れることで、考えや気持ちがまとまらなくなり妄想^{*1}や幻聴^{*2}などの症状を引き起こす病気です。約100人に一人と、決して稀な病気ではありません。思春期から30歳前後に多く発病しやすい病気です。現在は、良い薬の開発も進み、ある程度は病状に応じて薬を選択できるようになり、症状の改善が可能になりました。また、精神科リハビリテーションを組み合わせた治療により、社会参加できる方も増えています。



- * 1 妄想：実際にはないものが感覚として感じられること。「街ですれ違う人に紛れている敵が自分を襲おうとしている」（迫害妄想）、「道路を歩くと皆がチラチラと自分を見る」（注視妄想）、「警察が自分を尾行している」（追跡妄想）などの内容が代表的です。
- * 2 幻聴：誰もいないのに人の声が聞こえてくる、ほかの音に混じって声が聞こえてくるという症状です。「お前は馬鹿だ」などと本人を批判・批評する内容、「あっちへ行け」と命令する内容、「今トイレに入りました」と本人を監視しているような内容が代表的です。

（引用 Hp：http://www.mhlw.go.jp/kokoro/specialty/detail_intro.html）

統合失調症の症状



※不安・孤立・過労・不眠などによるストレスの蓄積は、症状の悪化や再発につながる恐れがあるので注意しましょう。

※統合失調症は一日も早く治療を開始したほうが病気の回復が早く、症状も軽くて済みます。まずは専門医に相談しましょう。

統合失調症は再発しやすい病気です。しかし、再発を予防することができます。

「統合失調症は人によって症状が異なり、生活する上での課題もさまざまです。作業療法士は、家事や仕事、趣味活動など、さまざまな作業を通して症状の改善を図るとともに、作業を提供することで、人と交わる機会を作り、社会生活をより良く生きるための能力の習得を支援します。」

**危険
信号**

- ①不眠が続く ②イライラしやすくなる ③食欲が低下
- ④焦りや不安の訴えが多くなる
- ⑤作業所やデイケアを急にやめてしまう。など

**サインを
見逃さない！**

◎上記サインを発見した場合は周囲が医療機関への受診を勧めることや服薬管理の支援をすることが大切です。

障害者総合支援法における就労支援サービス

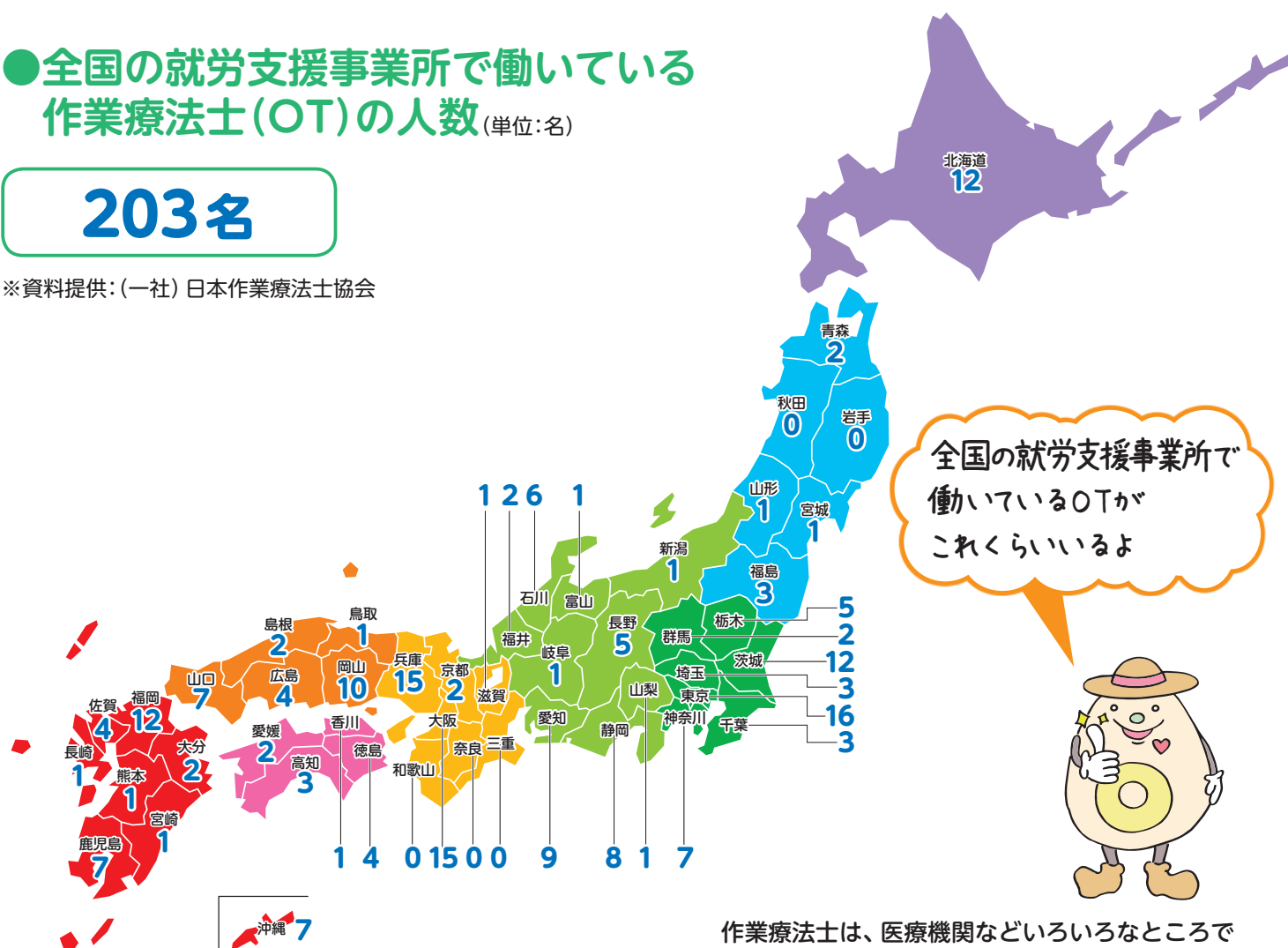
	就労移行支援	就労継続支援 A 型	就労継続支援 B 型
内 容	生産活動や職場体験、その他の活動の機会を提供し、就労に必要な知識や能力の向上のために必要な訓練をします。また、求職活動に関する支援、その適性に応じた職場の開拓、就職後も職場への定着のために必要な相談や必要な支援を行います。	一般企業で働くことが難しい方に対し、生産活動やその他活動の機会を提供し、就労に必要な知識や能力を身につける訓練を行います。	
		雇用契約を結んで最低賃金以上の給与が支払われます。	雇用契約は結ばず、作業収益に応じて工賃が支払われます。
対 象 者	一般企業等への就労を希望し、知識・能力の向上、実習、職場探し等を通じ、職場への就労が見込まれる 65 歳未満の障害者	適切な支援により雇用契約等に基づき就労が可能な 65 歳未満の障害者	①年齢や心身の状態などにより、雇用が難しい方 ②就労移行支援によっても雇用に至らなかった方 ③その他の一般就労が難しい方

※手続きの方法は、障害福祉担当課または相談支援事業所へご相談ください。

●全国の就労支援事業所で働いている 作業療法士(OT)の人数 (単位:名)

203名

※資料提供：(一社)日本作業療法士協会



作業療法士は、医療機関などいろいろなところで積極的に就労支援に携わっています。

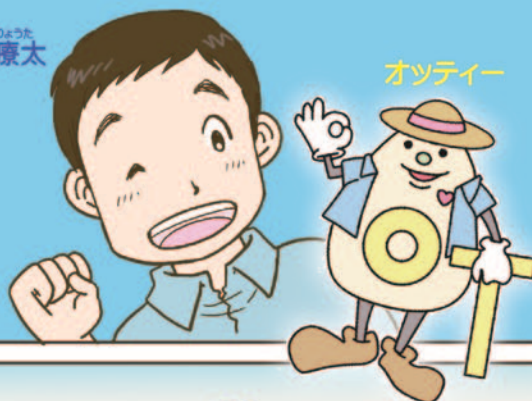
まんが

作業療法物語

地域生活を支える作業療法（就労編）

おおいだ 大分
りょうた 療太

オツディー



Aさんは就職したばかりの
20歳代前半のサラリーマンです

しかし、職場での仕事や人間関係がうまくいかず落ち込む日々が続いていました

そんなある日…

今日も仕事でミスをしてしまい、
肩を落として自宅に向かっていた途中、
お隣のご夫婦に会いました



こんばんは

A君こんばんは
今日も遅くまでお仕事ご苦労様

若いのに
仕事熱心で
感心だねえ

A君、
いつも職場でミスをして、
叱られているそうだよ

そのときAさんの頭の中に
突然幻聴が聞こえてきました

ダメなA君だなあ
ハハハハ

子どもの頃から、
テキパキできる子じゃなかったな

えっ！なんで
お隣さんが知ってるんだ

またミスをしたの？

徐々に部屋の中にも、
ご近所からの自分に対する誹謗中傷が聞こえてくるようになり、
仕事はおろか部屋から出ることもできなくなりました

みんな僕のことを
ダメな奴だと笑っている
もう嫌だ…

仕事もやめるよ

Aさんは両親に連れられ病院を受診しました

仕事を辞めて、
ずっと部屋に引きこもっているんです

部屋の中でずっと
独り言を言っています

だって、みんな僕のことを監視していて、
仕事のミスを笑うんです
どこで見られているか分からないから怖くて…

Aさんは統合失調症の診断を受け、しばらく外来通院しましたが、
症状の改善がみられなかったため入院することになりました

一旦入院してしっかりと休養を取り、
お薬での治療を行いましょう

入院後は服薬の効果もあり、
Aさんの症状は徐々に回復していきました

そして、入院から3ヵ月後
Aさんは退院することになりました

もう大丈夫だ!
がんばるぞ!

しかし…

退院後、Aさんは自分の判断でお薬をやめてしまい、
再び幻聴の症状が現れるようになりました
数ヵ月後にはまた部屋から出られなくなり、再入院することになりました

統合失調症の特徴として、自身が病気であるという認識が低い(病識の欠如)ことがあるよ!
これにより症状を再発させることで、入退院を繰り返すケースも少なくないんだ

再び治療を受け、退院間近となったある日、
精神保健福祉士との面接で、就労支援サービスを利用することを勧められました

退院したら、
早く仕事を始めたいと思っています
今度こそ大丈夫です

Aさんが、
また仕事に戻りたいという
気持ちはとても大事ですが、
急がば回れですよ
まずはお仕事の準備として
福祉サービスを利用してみませんか?

Aさんは退院後に 就労継続支援 B 型の事業所を利用することになりました

ここが
就労継続支援 B 型
事業所です

就労継続支援 B 型事業所

軽作業グループ

農作業グループ

パソコン作業グループ

製パン・製菓グループ

すごい
みなさんいろんな種類の
仕事をしているんですね

Aさんにとって
大事なのは症状が再発しないことです
まずは、一緒に学んでいきましょう

※ 就労準備性についての学習

まずは、働くための
基礎的な力をつけて
いきましょう

ストレスへの対処法の獲得

対人関係や生活の中で
ストレスを感じたときの
対策を考えましょう

服薬管理の徹底

体調が良くても
自分の判断で服薬をやめては
いけません

私は今まで、仕事をするための力をつければ、
復帰できると思っていましたが、
基本的な日々の生活を安定させなければ
仕事はできないということがわかってきました

※就労準備性とは職種を問わず、働く上で必要とされる、働くことについての理解・生活習慣・作業遂行の基本的な能力・対人関係の基本的なスキルなどの基礎的な能力のことです

数ヶ月がたち、Aさんの病状は安定し、どの仕事を選ぶか決めることになりました

Aさんはとても几帳面で衛生面に配慮できるところが強みです

パンや焼き菓子は、分量や工程など正確性が求められるから、Aさんの能力を活かせると思います

そういえば、僕、料理が昔から好きでよく母に頼まれて作っていました

調理関係の仕事に就きたかったんですが親の反対もあって…

仕事選びは、とても大切だよ興味関心の高いものにだけでなく、本人の持っている能力を活かせる仕事を探すことが大切なんだ!

こうしてAさんはパン・焼き菓子作りのグループに入り仕事をしていくことになりました

調理関係の仕事はただ調理をするだけの仕事ではありませんいろんな仕事を覚えていきましょう

Aさん調子はどうですか?

掃除や食器洗いの仕事ばかりでちょっと参ってます

ここに来られているみなさん、Aさんと同じような過程を踏んでいるんですよ

みなさんにお話を聞いてみましょう

就労支援では、対象者の表情や言動から、いち早く異変を察知し対応することで、症状の再発を予防することができるんだ

パンを作れるまで半年かかったよ最初は、今のAさんと一緒に雑用ばかりで参ったよ

その時期があったから、今、頑張れると思うよ

Aさんはよくがんばっているね

その通り

先輩の思いや仲間の励ましに力をもらい、Aさんは再びやる気を高め、仕事に取り組むことができるようになりました

これを、ピアサポートと言い、当事者同士の交流を中心にそれぞれの仕事や生活における体験談を語り合いますこの活動は仲間同士でお互いを支えるというものです

就労継続支援B型事業所を利用し始め、3ヶ月が経過しました
Aさんはだんだんと業務に慣れ、一人でできる仕事が増えていきました
そしてある日……



Aさんは初めてパン作りをすることになりました



Aさんは自宅へ帰り、
初めて作ったパンを両親にプレゼントしました



次の日



作業療法士は、就労を目指す方々の心身の状態や特性をしっかりと把握し、
その方にあった作業（仕事）を提案します

苦手な課題にもチャレンジしてもらい、就労に必要な知識や能力を高める支援を行います
また生活能力を高め、作業をすることで精神状態の安定を図り、
病気や障害の進行や再発を防止することも役割の一つです

おわり

平成29年九州北部豪雨における 大分JRATの活動報告

大分JRAT事務局(大分県リハビリテーションセンター/常務理事) 佐藤 友美

東日本大震災以降、災害時に避難者の生活不活発を予防し、災害関連死を防ぐ重要性が強調されています。リハビリテーションの立場で組織的に活動するため、災害リハビリテーション関連団体協議会(JRAT)が設立され、その地域組織として、大分災害リハビリテーション推進協議会(大分JRAT)は平成28年5月に組織化しました。そして、平成29年5月には大分県と「災害時におけるリハビリテーション支援活動に関する協定」を締結し、大分県内での災害時に知事要請があった場合、医療チームの一つとして公的な立場で活動できるようになりました。



地域を知る保健師との連携は重要です。情報交換を欠かさず、小さな気づきも伝達します。

こうした組織体制の強化を進めていた矢先の平成29年7月に九州北部豪雨により、日田市や中津市で災害が発生しました。地域は限局されていたものの、被害は大きく、避難生活が長期化することが予測されました。そこで、大分JRATは知事要請を受けて日田市で被災した方々に対し災害リハ支援を行うこととなりました。7月9日から10日間活動を行い、計35名のリハ専門職(うち作業療法士15名)が活動支援員として参加しました。

医療対策本部となった西部保健所で指示を受け、他の医療

チームと連携して公的避難所で活動しました。まず避難所が高齢者や障がい者にとって安全な空間になっているかを確認しました。その上で、①医療や介護が必要な方がいないか、②避難生活で活動量が低下していないか、③口腔ケアはできているかなどについて、避難されている方に声をかけ、必要があればアドバイスを行ったり保健師との連携を行いました。また、エコノミークラス症候群及び熱中症予防の啓発、集団での体操を行い、気分転換や体の機能低下を防ぐ活動を行いました。避難所での体操習慣作りは、地元住民の健康運動リーダーと連携し、大分JRATの活動終了後にも継続して行う形をすることができました。



避難所は床の生活になります。立ち座りに難しさがないか、安全性を確認している様子です。

10日間の活動で累計180人の被災されている方に関わりました。幸い、この度の災害による災害関連死やエコノミークラス症候群は確認されていないと大分県より報告を受けています。我々の活動が、微力ながらも避難所生活を支えることができたのではないかと考えています。

今後は、災害現場で活動できる作業療法士の育成はもちろんですが、避難後の生活不活発予防の工夫や避難所生活を乗り切る方法などを県民に対して啓発活動を行うこと、避難所運営への提案にも取り組むことを計画しています。大分県の目指す“災害に強いまちづくり”に、作業療法士の力も生かしていきたいと考えています。



地域住民の健康運動リーダーと協力し、継続的に運動が行える場を作りました。



所属施設や職種を超えて一つのチームとして活動します。左からOT・DH・PT・OT・PTです。当協会佐藤理事も活動しました。(右から2番目)



作業療法 フェスタ2017



平成29年9月24日(日)、イオンパークプレイス大分店と大分駅(上野の森口/府内中央口)で「作業療法フェスタ2017」を開催しました。

「作業療法フェスタ」とは、こころとからだのリハビリテーションの専門家としてその人らしい生活を支える作業療法士の仕事内容を一般の方により深く知っていただく機会であり、小さなお子さんが作業療法に興味を持つことで未来の作業療法士の芽を生む機会の場でもあります。

イオンパークプレイス大分店では、「親子でワクワク作業療法」「クイズでイキイキ健康づくり」「使ってワクワク福祉用具」「体イキイキめじろん体操」の4つのブースで参加者に作業療法を知っていただきました。「使ってワクワク福祉用具」に参加した親子は「これをおばあちゃんにあげたらきっと助かるだろうね。」と福祉用具

の実用性を実感されていました。また、「体イキイキめじろん体操」に参加された方は「大分県がこういった体操を始めていることを初めて知った。」「みんなで体操すると楽しい。」などの声をいただきました。

大分駅では「相談窓口」と「作業療法おしごと紹介」の2つのブースを開きました。「相談窓口」では将来は作業療法士になりたいと言われる高校生2年生が、養成校のカリキュラムや就職先のことを質問し今後の進路について相談していました。「作業療法おしごと紹介」では参加した方へパンフレットや「まんが作業療法」を用いて私たちの仕事内容を紹介しました。

今回のフェスタは、私たち作業療法士が目目の対象者の生活を支えるためにどのような取り組みをしているのか解りやすく説明し、たくさんの方に理解を深めてもらえたのではないのでしょうか。





「大切なひとり ～その人だからこそその役割～」

常務理事 平野 政治 (明和記念病院)



私が3歳の時、私の父は仕事の帰りにバイクで転倒し大けがを負った。脊髄損傷だった。それ以来、父の両足は全く動かず車いすが欠かせない生活となった。

車いすでの生活の大変さを身近で感じた。そんな中でも、キャッチボールや釣り、ドライブ、勉強を教えてくれたり、部活の応援に来てくれたり、父親としての存在は大きかった。

40年が過ぎ、父はじいちゃんになっている。私の子どもたちは、初めて行く場所ではいつも「このお店だったらじいちゃんも一緒にご飯食べに来られるね」、「ここの公衆トイレはじいちゃん使えるよ」、「ここ(温泉施設)のお風呂だったらじいちゃん入れるよ」などと、車いすのじいちゃんと一緒に来られるか確認している。父が車いすを使っていなければそのような視点は身につかなかったと思う。そんな子どもたちの優しさを見てると嬉しくなり、そのように育んでくれている父に感謝する。父が車いすでの生活でよかったとさえ思うことがある。

車いす生活になった父は、

妻(私の母)にとって	夫(支え) 子どもを育てるパートナー 主夫(家事の分担)
子ども(私)にとって	父(遊びや勉強、経済的支え) 車いすでの生活の大変さを体感させてくれた 作業療法士を仕事にするきっかけを与えてくれた 父親としてのお手本
孫(私の子ども)にとって	じいちゃん(遊んでくれる、お菓子やお小遣いをくれる) 車いすでの生活を身近に感じさせてくれる バリアフリーに目を向ける視点を与えてくれる 人への気遣い、優しい心を育んでくれる
親戚や友人にとって	車いすでの生活を身近に感じさせてくれる 車いすで生活する障がい者への介助の仕方を教えてくれる

車いす生活になった父は、私や私の子どもたちに多くのことを教えてくれ、気付かせてくれている。もし父が健常者だったら今の私や私の子どもたちはないと思う。車いすで生活を送る父だからこそその役割だと思う。

私たち作業療法士は、様々な障害や不自由を負った方々にリハビリテーション支援を行う。目の前のその方は、誰かにとっての大切なひとりに違いない。夫として、父として、じいちゃんとしての色々な役割があり、障害を負ったからこそ、その方にしかできない役割が必ずある。役割とは、広義の「参加」だと考える。そこにしっかり目を向け支援できる作業療法士でありたいと思う。

新卒者研修会

日 時：平成29年6月4日(日) 9:30～16:00
 場 所：大分県消費生活・男女共同参画プラザ
 アイネス 大会議室
 内 容：当協会の歴史・組織、公益社団法人としての役割について、各部局・支部説明等
 参加者：75名

現職者共通研修Ⅰ

日 時：平成29年6月22日(木) 19:30～21:00
 場 所：大分県作業療法協会ビル
 内 容：作業療法生涯教育概論
 講 師：洲上 祐亮(教育研修部部長／大分豊寿苑)
 参加者：35名

高校生「作業療法一日体験」

日 時：平成29年7月1日(土)～8月31日(木)
 場 所：会員所属施設(61施設)
 内 容：作業療法の体験や見学等を通し理解を深める
 参加者：県内の高校生(141名)

現職者選択研修**生活行為向上マネジメント(MTDLP)基礎研修**

日 時：平成29年7月15日(土) 9:30～17:00
 場 所：大分県消費生活・男女共同参画プラザ
 アイネス 大会議室
 内 容：①MTDLP概論、演習、グループワーク
 講師：佐藤 友美(MTDLP推進員／湯布院病院)
 ②MTDLPを現場で活かすコツ
 講師：大田 繁(MTDLP推進員／湯布院病院)
 参加者：48名

現職者共通研修Ⅱ

日 時：平成29年7月20日(木) 19:30～21:00
 場 所：大分県作業療法協会ビル
 内 容：作業療法における協業・後輩育成
 講 師：山崎 翔太(教育研修部副部長／明野中央病院)
 参加者：45名

九州夢大学(マイナビ主催)への出展

日 時：平成29年7月26日(水) 13:00～16:00
 場 所：大分イベントホール
 対 象：大分県内高校生
 内 容：おしごと研究ゾーン内の広報(作業療法の仕事紹介、啓発、普及)

大分県リハ職等スキルアップ研修 ①

日 時：平成29年7月28日(金) 19:00～21:00
 場 所：ホルトホール大分 409会議室
 テーマ：「模擬事例からOTの助言を考えるPart ①」
 事例提供者：伊東 賢悟(佐伯市社会福祉協議会)
 梅木 大輔(湯布院病院)
 コーディネーター：佐藤 暁(常務理事／井野辺病院)
 参加者：59名

現職者共通研修Ⅲ

日 時：平成29年8月1日(火) 19:30～21:00
 場 所：ホルトホール大分 302会議室
 内 容：職業倫理
 講 師：浅倉 秀剛(大分中村病院)
 参加者：56名

大分県リハ職等スキルアップ研修 ②

日 時：平成29年8月18日(金) 19:00～21:00
 場 所：コンバルホール 400会議室
 テーマ：「介護予防の実際～徳島県作業療法士会の取り組み～」
 講 師：岩佐 英志(徳島県作業療法士会 会長／徳島健祥会福祉専門学校)
 細川 友和(徳島県作業療法士会 副会長／リハビリテーション大神子病院)
 参加者：85名

現職者共通研修Ⅳ

日 時：平成29年8月24日(木) 19:30～21:00
 場 所：ホルトホール大分 408会議室
 内 容：保健・医療・福祉と地域支援
 講 師：國政 和子(日田市役所 障害福祉課)
 参加者：47名

人材育成道場Ⅱ(地域ケア会議助言者編)

日 時：平成29年9月3日(日) 10:00～15:00
 場 所：大分県作業療法協会ビル
 内 容：地域ケア会議助言者の育成のための研修会
 ①地域ケア会議において作業療法士が果たす役割
 講師：村田 健太(地域包括ケア事業部長／湯布院病院)
 ②グループディスカッション(事例を通して)
 講師：佐藤 暁(常務理事兼地域生活推進局長／井野辺病院)
 参加者：12名

現職者共通研修Ⅴ

日 時：平成29年9月20日(水) 19:30～21:00
 場 所：大分県作業療法協会ビル
 内 容：実践のための作業療法研究
 講 師：彌田 剛(藤華医療技術専門学校)
 参加者：21名

大分県リハ職等スキルアップ研修 ③

日 時：平成29年9月22日(金) 19:00～21:00
 場 所：大分県消費生活・男女共同参画プラザ
 アイネス 大会議室
 テーマ：「住宅改修・福祉用具を活用する技～作業療法士の力～」
 講 師：倉富 眞(佐賀県作業療法士会 会長／医療福祉専門学校)
 黒田 康裕(佐賀県作業療法士協会／医療福祉専門学校)
 参加者：110名

作業療法フェスタ2017

日 時：平成29年9月24日(日) 10:00～15:00
 場 所：①イオンパークプレイス大分 1Fサニーウォーク
 内容：リハビリテーション相談、作業療法体験、福祉用具体験・展示、パネル展示
 場 所：②大分駅北口 駅前広場
 内容：リハビリテーション相談、リーフレット・アメニティ配布、新聞広告・メディア媒体での広報 等

現職者選択研修 精神障害領域

日 時：平成29年10月1日(日) 9:30～16:40
 場 所：大分岡病院 4F研修センター
 内 容：①精神障害領域の基礎知識
 講師：伊東 竜太郎(鶴見台病院)
 ②精神科病棟における作業療法
 講師：大津 光弘(加藤病院)
 ③近年の精神疾患の動向と薬物治療について
 講師：山下 瞳(大分大学医学部附属病院)
 ④精神科作業療法における就労支援
 講師：山下 瞳(大分大学医学部附属病院)
 参加者：17名

現職者共通研修Ⅶ

日 時：平成29年10月10日(火)
場 所：大分県消費生活・男女共同参画プラザ
アイネス 大会議室
内 容：日本と世界の作業療法の動向
講 師：佐藤 孝臣 (公社)大分県作業療法協会 副会長/(一社)日本作業療法士協会 理事/株式会社ライフリー
参加者：51名

サロン出張講座

日 時：平成29年10月12日(木) 10:30～11:30
場 所：春日町公民館
内 容：介護予防に関する講演や運動指導等
派遣者：甲斐 裕介(デイサービス楽)
平山 聖美(大分県作業療法協会)
参加者：16名

大分県リハ職等スキルアップ研修 ④

日 時：平成29年10月27日(金) 19:00～21:00
場 所：ホルトホール大分 201・202会議室
テーマ：「模擬事例からOTの助言を考えるPart②」
事例提供者：沼田 武一郎(あおぞら病院)
芦刈 一也 (湯布院病院)
コーディネーター：佐藤 暁(常務理事/井野辺病院)
参加者：39名

「リレー・フォー・ライフ大分2017」への参加

日 時：平成29年11月3日(金) 11:00～
11月4日(土) 11:00～
場 所：大分スポーツ公園 大芝生広場
内 容：健康増進普及活動、リハビリテーション相談
参加者：会員53名(全体6800名)

現職者共通研修Ⅵ

日 時：平成29年11月7日(火) 19:30～21:00
場 所：ホルトホール大分 409号会議室
内 容：作業療法の可能性
講 師：荒木 良夫(大分県作業療法士連盟会長/藤華医療技術専門学校)
参加者：35名

「大分県保健医療団体協議会げんきフェア&福祉センターまつり2017」作業療法コーナー設置

日 時：平成29年11月12日(日) 10:00～15:00
場 所：大分県社会福祉介護研修センター
内 容：リハビリテーション相談、作業療法体験
来場者：100名

現職者共通研修Ⅷ

日 時：平成29年11月16日(木) 19:30～21:00
場 所：大分県作業療法協会ビル
内 容：事例報告と事例研究
講 師：篠原 美穂(杵築市立山香病院)
参加者：26名

大分県リハ職等スキルアップ研修 ⑤

日 時：平成29年11月17日(金) 18:50～20:50
場 所：大分県消費生活・男女共同参画プラザ
アイネス 大会議室
テーマ：「認知症の方に対する支援
～地域活動を通して学んだこと～」
講 師：前田 隆行(町田市つながりの開理事長)
参加者：62名

職業人講話

日 時：平成29年11月24日(金)
場 所：別府翔青高等学校
内 容：高校生への作業療法啓発・普及・進路相談について
派遣者：柿本 友彦(こだま病院)
小野 綾華(博愛病院)
参加者：24名

現職者共通研修Ⅸ

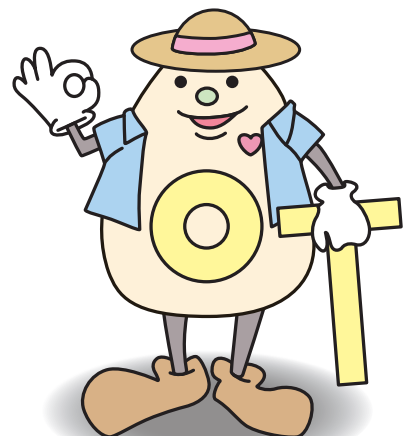
日 時：平成29年11月28日(火)
場 所：大分県作業療法協会ビル
内 容：事例報告、事例検討
コーディネーター：
後藤 英子(常務理事/大分リハビリテーション専門学校)
河野 大輔(東部支部 支部長/別府リハビリテーション病院)
参加者：24名

管理運営に関する研修会

日 時：平成29年12月3日(日) 9:30～14:30
場 所：ホルトホール大分 404会議室
内 容：①作業療法士の職業倫理
講師：衛藤 博文(理事/元大分県議会事務局長)
②やってみようRCA② ～分析と対策～
講師：日隈 武治(副会長/大分リハビリテーション専門学校)
参加者：11名

大分県リハ職等スキルアップ研修 ⑥

日 時：平成29年12月15日(金) 18:50～20:50
場 所：大分県消費生活・男女共同参画プラザ
アイネス 大会議室
テーマ：「地域共生社会の実現に向けた生活困窮者に対する支援
について」
講 師：宮崎 宏興(理事長・作業療法士/特定非営利活動法人いねいぶる)
参加者：35名



公益社団法人 大分県作業療法協会
イメージキャラクター
おってい

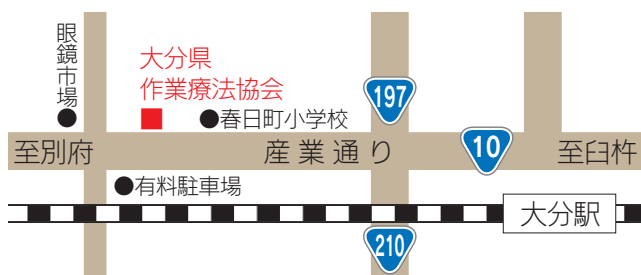


作業療法士は、

そのひとの人生が生き活きとしたものとなるよう、仕事、遊びなどの日常生活のなかでの活動(作業)をとおして、こころとからだを元気にするリハビリテーションの専門職です。



リハビリテーションのことや、作業療法
のことで分からなかったり、お困りのこ
とがありましたら、右記までご連絡くだ
さい。



公益社団法人 大分県作業療法協会

〒870-0038 大分県大分市西春日町3-2 大分県作業療法協会ビル

TEL:097-547-8662 FAX:097-547-8663

<http://www.oita-ot.com>